マドゥラ島

マドゥラ島についてご存じでしょうか。もうしかしたら知りの方はほとんどいませんようね。確か、世界中では有名な島ではありません。島が小さくて、きれいな島ではありません。インドネシアの事についてインドネシアへ行く観光客に聞いたら、バリ島しか知りません。しかし、この悲しい現実があっても、マドゥラ島は「私の故郷だった」と優雅に認められるべきですようね。マドゥラ島と言えば塩「しお」です。インドネシアは赤道に位置の国なので1年を通して、温度が安定しています。熱帯国として暑くて乾く地方が多いです。マドゥラ島はインドネシアの列島の一つに属するので、マドゥラで暑いと乾性は普通の事です。海で囲われます。乾いてさわやかな海風で与えられる場所が多いです。高地があまりないで、平地が広いです。天気は砂漠のような天気です。昔の天気、昼は暑くて、夜は寒いですが、最近地球温暖化の影響で日常の天気は暑くなってきました。この天然状態に恵まれて、塩田と食塩の産地が多いです。塩を作るのは簡単ですが大変です。基本的な作り方は海に近く場所があれば広い池に海水を入れてこの水が蒸発されるようにします。それで、時間が立つにつれて水が少なくなります。残りは結晶化した塩です。高品質塩を達成したかったら湿度を整えます。しかし、根本的な問題は海自体の品質です。海の塩分濃度によって味が違うからです。

ところで、マドゥラ島の位置はジャワ島の北東にある島です。商い巧者である人はマドゥラ人の特性の一つです。従ってマドゥラ人がジャワ島によく行きます。そうしてマドゥラ島では平地が広くて風の音がうるさいので、相手とお互いに話す時に叫ばないといけません。さもなければ一般的なジャワ人は柔らかく話します。ジャワ人とマドゥラ人が会ったら会話があまり合いません。原因として、個人的な声の音量についてマドゥラ人のほうが高いです。合わない理由はジャワ人にとってマドゥラ人の話し方は無礼です。しかしマドゥラ人にとって普通です。この文化の違いで両方の部族の勘違いがよく起きます。

実はもう一つ面白い事があります。マドゥラ人になりたい場合、喋る時に各言葉の最後の音節の前に小さい「つ」を付けます。例えば「書きます」と言いたら、ひらがなで書けば「かきます」になります。小さい「つ」付けて「かきっます」になりました。そして繰り返し言葉であれば最初の音節を言いません。例えば「キラキラ」と言いたら、マドゥラ人の喋り方で「ラキッラ」になります。というシンプルな喋り方であなたはマドゥラ人になるのは簡単にできますよ。

記事の作成者